

富士川流域に伝わる 投げだいまつ

昭和六十二年九月五日号

富士川の流域では昔から、投げだいまつと呼ばれる珍しい祭りが行われていました。

岩松地区の水神に住む鈴木孝一さんは、投げだいまつについて次のように話してくれました。

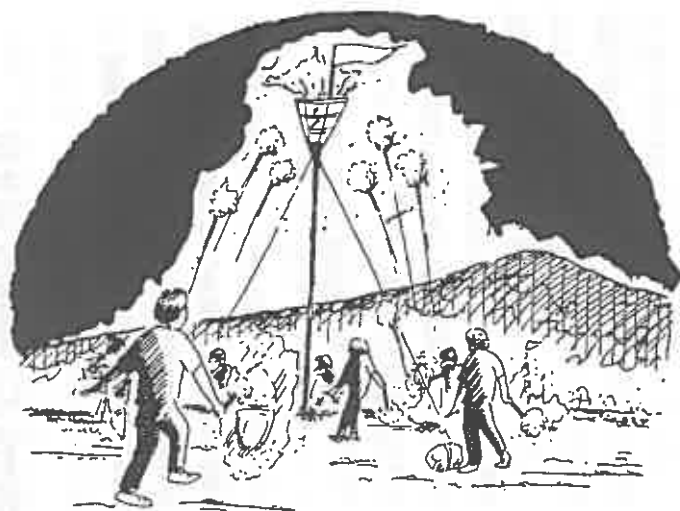
このあたりじゃ、お盆の八月十六日に「投げだいまつ」をやったもんだよ。あれは祖先の供養と川で溺死した人の供養かたがたやるみたいだね。昔は、川で死ぬ人も多かつたからね。

この富士川の流域では、ずっと山梨県の方からやってたと思うよ。

投げだいまつっていうのは、十ヶべらいの木の上へ、じょうこのようなかごを竹で編んでつくってね、それへ大豆の皮とか製材のかななくずみだいな物を詰めてつくつたね。

それへと火をつけるんだけど、一尺（約三十センチ）ぐらいのたいまつにわら縄のひもをつけて、ぐるぐる回して投げるわけだよ。たいまつもまだ燃え始めのころは、いかくて重たいから、軽くなないとかごになかなか入んなかつたよ。どうしても入んないときは、のしってつけたんだけど、終戦のころは電気で火をつけたこともあったよ。

昔はお盆っていうと、十六日までしつかり



昭和62年10月のかりがね祭り

休んだもんだからね。投げだいまつをやる青年も、ずいぶん集まったもんだけどねえ。あのころは、ほかに娯楽っていつてもなかったし、ほかの村からも見に来てくれて楽しかったよ。今の子供は、そんな楽しみも恐らく知らないんじゃないかな。

いつごろから投げだいまつをやらなくなっただか、終戦で途切れちゃったじゃないですか。